

活動レポート

青年技術士交流委員会

文責：青年技術士交流委員会幹事 仁田 智

テクニカルスクール「ワールド・カフェ」を開催

1. はじめに

当委員会では、技術力の向上をテーマに連続的なセミナー（テクニカルスクール）を開催しています。今回は、情報デザインや科学技術コミュニケーションの分野でご活躍されている東海大学の渡辺保史先生を講師にお迎えし、現在注目されている「ワールド・カフェ」を含むコミュニケーションツールについて学び、実際にそれらを体験するセミナーを開催しました。

以下に開催概要をご報告いたします。

2. 開催概要

テクニカルスクール「ワールド・カフェ」

～ファシリテーションプロセスを学ぶ～

- 日時：平成24年11月16日(金) 15時～
- 場所：大通コワーキングスペース・ドリノキ
- 参加人数：20名
- 講師：渡辺 保史 先生
(東海大学国際文化学部デザイン文化学科 客員教授)
- プログラム
 - 15:00～ アイスブレイク
 - 15:15～ 講義(+質疑応答)
 - 16:15～ 実習：ワーク×3 (+ふり返し)
 - 18:00～ 意見交換会

3. セミナー内容

(1) アイスブレイク

セミナーの冒頭では、参加者同士の緊張感をほぐすアイスブレイクで、場の雰囲気を作りました。今回は、相手の発言に肯定的に意見を加えていく「インプロ」という方法を体験しました。例えば、Aさん：冬は寒いね⇒Bさん：しかも雪が降るしね

⇒Cさん：それに道が凍って滑るしね、というように相手の発言を否定せずに意見を加えていきます。初対面の相手でも無理なく会話が進み、なぜだか笑いもこぼれます。

(2) 講義(+質疑応答)

講義の前半では、ワークショップやファシリテーションの歴史・定義等についてお話があり、私たちが普段から持っているそれらのイメージを1度リセットして頂きました。その中で、社会からワークショップが求められている背景について、中央集権のピラミッド型社会から自律分散のウェブ型社会へと変容しつつあり、特定の専門家の考えだけではなく社会全体で答えを導き出していく、つまり社会そのものがワークショップ化している、というお話がありました。これは、私たちも普段から感じていることで、私たち専門家に求められるものが少しずつ変わってきていることを改めて考える機会となりました(例えば、答えを導き出し、それを主張したり教えたりする役割から、多様で複雑となっている問題に対して、みんなで答えを出すためのつなぎ役・支援者としての役割へ)。



写真-1 渡辺先生による講義の様子

次に、ワークショップを構成するのに必要なファシリテーションスキルについてお話を頂き、その中で、①場をデザインし、場を作り繋げるスキル、②

受け止めて引き出す、対人関係のスキル、③かみ合わせ整理する、構造化のスキル、④まとめ分かち合う、合意形成のスキル、という4つのスキル群について言及されていました。また、スキルだけあれば良いのではなく、柔軟性と決断のバランスや、無条件の信頼、遊び心なども大事であるとお話もありました。

講義の後半では、渡辺先生が携わってきた活動をケーススタディとして、全国都市再生モデル調査事業「ハコダテ・スミカプロジェクト」をご紹介頂きました。この取り組みは、函館山の山裾に広がる地区での、人口減少や高齢化、空き家・空き地の増加等といった課題に対して、まちづくりを推進する行政、建築士やデザイナーなどの専門家、子供から大人までの一般市民が一堂に会して、これからの街や暮らしのことを一緒に考えていく仕掛けとして、2日間に渡るワークショップを行ったという、大変興味深い事例でした。

(3)実習：ワーク×3 (+ふり返り)

実習では「ワールド・カフェ」を2ラウンド行った後、「マイクロプロジェクト」という手法で、自分たちが取り組めるような企画を考案しました。

今回、ワークを行うに際して、私たちが渡辺先生にお渡ししたテーマは「技術士が社会に認知されるためには何をすべきか？」というものでしたが、短い時間の中で対話をするテーマとしては、やや大きすぎるとのご指摘があり、自分たち事として対話に集中しやすいダウンサイジングしたテーマに変換して頂きました。

ワールド・カフェの1ラウンド目では「日々の仕事や活動を通して、技術士になってよかった！と実感するのは、どんな時？」をテーマに、4～5人のグループを作って会話をし、それぞれの意見を大きな模造紙に書き出していきました。出てきた意見は、クライアントからの信用が得られる、より難易度の高いプロジェクトに加われる、技術者交流の機会が増える、などなど。その後、ホスト役1人だけをテーブルに残してメンバーを入れ替え、2ラウンド目は「次の世代と共有したい技術士の魅力は？」をテーマに、1ラウンド目が出た意見を踏襲しつつ、さらに

意見を書き出していきました。出てきた意見は、地図に残る仕事はやりがいがある、自らの構想を形にできる喜びが大きい、給料が上がる(!?)、などなど。

3ラウンド目は、3人1組のグループを作り、それぞれが「できること」、「好きなこと」を組み合わせ、マイクロプロジェクトを作りました。例えば、Aさん：キャンプが趣味、Bさん：子供と一緒に遊ぶのが好き、Cさん：おいしい料理を食べに行くのが好き(お酒も好き!)、という3人が作った企画は、「企画名：技術がいっぱいPEキャンプ、対象：子供とその家族、概要：キャンプ場には、道路・川・橋・建物など、身近に技術を学べる素材がいっぱいある、それらを教材に技術を学び、その後はキャンプも楽しめるイベントを開催する」というものでした。

ワークの最後には、今回のセミナーをふり返って、「!」発見・気づき・アイデア、「?」疑問・違和感・モヤモヤ、を各自ポストイットに書き出し、ホワイトボードに貼って参加者全体で共有しました。



写真-2 グループワークの様子

4. おわりに

今回のテクニカルスクールでは、本来議論をしたいテーマをダウンサイジングした内容でワールド・カフェを行いました。次の全国大会(札幌)の青年技術士のイベントでは、本来のテーマである「技術士が社会に認知されるためには何をすべきか？」について議論を深めていきたいと考えています。

また、今後も青年技術士の技術力向上を目的として、各種セミナーを開催していく予定です。幹事一同、皆さまの多数のご参加を心待ちにするとともに、今後も変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。